

第 8 7 9 回

定例教育委員会会議録

日 時 令和 2 年 1 1 月 2 4 日（火） 9 : 3 0 ~

場 所 益田市立市民学習センター 2 0 3 号室

益田市教育委員会

第 8 7 9 回 教育委員会定例会

招集年月日 令和 2 年 1 1 月 2 4 日（火） 9 時 3 0 分～

招 集 場 所 益田市立市民学習センター 2 0 3 号室

議 事 日 程

第 1 会議録の承認

第 2 教育長報告

第 3 議題

報第 3 9 号 益田市立匹見小学校及び益田市立匹見中学校の同一校舎運営
について

報第 4 0 号 益田市立中西小学校及び益田市立真砂小学校の改築について

報第 4 1 号 令和 2 年度益田市定着度調査結果について

報第 4 2 号 突風による物損事故に係る物損損害の損害賠償について

第 4 その他

(1) 情報提供

- ・ 史跡スクモ塚古墳現地説明会について
- ・ 益田市立高津学校給食センター調理業務委託について

(2) その他

出席者

教育委員会

教 育 長
教 育 委 員
教 育 委 員
教 育 委 員
教 育 委 員

柳 井 秀 雄
中 野 純
舟 橋 道 恵
村 上 三恵子
梅 津 富美子

事務局職員

教 育 部 長
ひとづくり推進監
教 育 総 務 課 長
学 校 教 育 課 長
学 校 教 育 課 参 事
文 化 財 課 長
社 会 教 育 課 参 事
美 都 分 室 長
匹 見 分 室 長
教 育 総 務 課 長 補 佐
教 育 総 務 課 主 任

野 村 美夜子
大 畑 伸 幸
長 嶺 勝 良
田 原 啓 文
森 脇 達 也
山 本 浩 之
岡 崎 賢 一
中 島 純 子
齋 藤 一 臣
齋 藤 勝 義
中 田 香 織

柳井教育長 ただいまより第879回益田市教育委員会定例会を始めさせていただきます。よろしくお願いします。
それでは、早速ですが議事に入らせていただきます。

第1 会議録の承認

柳井教育長 会議録の承認につきましては、先ほどご承認いただきました。

第2 教育長報告

柳井教育長 続きまして、2番目の教育長報告に移らせていただきます。
まず、10月30日に匹見小中が同一校舎で運営していくということで、匹見の花咲会と確認書を交わしまして締結をいたしました。これをもって政策調整会議、そして総務文教委員会で説明し、報道発表をさせていただきました。
続いて、31日の古墳視察につきましては、市内の4つの古墳、小丸山古墳、スクモ塚古墳、大元古墳、鵜の鼻古墳群がありまして、この4つの古墳を巡りました。この視察には10名の方が参加されておりまして、半数が東京、大阪などの県外から来ておられました。
あと、5日に全国史跡整備市町村協議会総会に出席してまいりました。これは、国の史跡に指定されている市町村が、財政的にこのまま堅持または増やしていただきたいという要望等について話をしております。
簡単ですが、報告は以上となります。よろしいでしょうか。
教育委員 ＝全員了承＝

第3 議題

○報第39号 益田市立匹見小学校及び益田市立匹見中学校の同一校舎運営について

柳井教育長 それでは、これから第3の議題に移らせていただきます。
報第39号益田市立匹見小学校及び益田市立匹見中学校の同一校舎運営について、事務局よりお願いします。
長嶺課長 昨年度のところで、今後の小中学校のあり方実現に向けた実施計画を策定しており、その中に、匹見小学校においては中学校と同一校舎で運営していくということを記載しております。これに基づきまして、匹見地域の小学校、中学校の保護者を中心に、匹見花咲会という組織が立ち上げられました。この花咲会とは4月16日から協議を行ってまいりました。もちろん、花咲会では内部でいろいろ議論をされた上で、合意形成に努められてきました。
最終的には、先ほど教育長報告でもありましたが、10月30日付で匹

見花咲会会長と教育長が、来年4月から同一校舎における運営を行うという確認書を交わしました。

匹見小学校と中学校の児童生徒数につきましては、この10月現在であります。匹見小学校が11名、中学校が8名在籍しております。こういった中で、同一校舎として匹見小学校の方で受け入れて、1階が匹見小学校、2階が中学校の教室という形で運営をしていくという状況になっております。

次に、同一校舎の運営に向けた施設整備について、花咲会からは子どもたちの教育環境の充実という部分も要望としていただいております。これにつきましては、一定程度匹見小学校の施設の改修ということも新年度予算の中に盛り込んでいきたいと考えております。

主に3点について改修していくということで、1点目に音楽室、図書室の雨漏りについて修繕していきたいと考えております。

2点目に、校舎1階、2階のトイレの修繕を行いたいと考えております。トイレの改修は計画的に行っており、匹見につきましては来年ではなく再来年の予定でございましたが、今回こういった形になりますので、小学校部分、中学校部分について、国との財政面の協議をして対応できるように手続を取っているところです。

3点目に、2階に中学生の教室が入ってきますので、この教室にエアコンの設置ということも検討しております。新設ではなく移設という形で対応できると考えているところです。以上です。

梅津委員
長嶺課長
村上委員

通学についてはどのような形になるのでしょうか。

今までと変わらない形で通学していただきます。

実施計画に向けて地域の方との話し合いを重ねられて、同一校舎の運営が進んできたということは、本当に良かったと思っております。そうした中で、学校として、小学校1校、中学校1校が残るという形になるのであれば、その中の職員の方の体制について、校長先生というのはお二人になるのかというところが分かりませんので教えていただきたいと思います。

長嶺課長

職員の体制につきましては、島根県教育委員会の所管になりますので、市側がどうこうできるところではありません。しかし、現状につきましては校長を通じて県に伝えていきたいと思っております。

村上委員
舟橋委員

分りました。

この同一校舎という言葉によれば、それぞれが別々にやっていくように感じます。気になりますのは、同一校舎として運営していくけれども、先々を見ても子どもが少ないという状況になると思いますが、そういった辺りも含め、先を見通しながら進めていかないといけないということを感じておりまして、どのように考えておられるのか教えていただきたいと思います。

長嶺課長

何年先にどうするのかという考え方は今の段階では持っておりません。これは利点と言っていいのかわかりませんが、限られた人数であるからこそ中学校の先生も小学校のうちから児童を見ていける。小学校の先生も児童が大きくなっても見ていけるといいうところがありますので、こういった利点というところを探しながら進めている状況にあります。

実際のところ、例えば中学生であれば、横田中学校へ出ていきたいという方も今後出てくるのかもわかりませんので、何年後にはこうしますというのを今の段階では押し図ることができないというところが実情ではあります。

舟橋委員

ありがとうございました。それは誰にも分からないというところでもあります。これからまた匹見小中学校に関わっていかれる折には、少しそういうところも見通しながら物事を進めていったほうがいいと思いますし、匹見の地域が良くなっていくことが大事ですので、そういったところもしっかり詰めながらご提案されたり、伝えていくということも大切だと思います。

長嶺課長

分りました。

柳井教育長

それでは、この件についてよろしいでしょうか。

教育委員

＝全員了承＝

○報第40号 益田市立中西小学校及び益田市立真砂小学校の改築について

柳井教育長

それでは続いて、報第40号益田市立中西小学校及び益田市立真砂小学校の改築についてお願いします。

長嶺課長

まず、中西小学校につきましては、すでに工事が始まっておりまして、およそ外観が分かる状況になっております。骨組みも立ち上がって、後ろの校舎はスレートの屋根がついております。

建築工事につきましては、今年の7月に始まり、長梅雨で8月まで梅雨が明けないというところで、造成工事をされた業者が、もともと底地が田であって非常に土地が緩く、雨が降る中では仕事ができないということがあり、全体的に工事が大きく遅れるのではないかとということもありましたが、都市整備課を中心に造成工事、建築工事をうまい具合にすみ分けながら工事を進めてきております。

こういった中で、建設する土地について島根県の開発協議に時間を要したというところで2、3週間分、工事が遅れている状況になっております。しかし、工事業者、市の担当者からは、この後何もなければ、当初の計画どおり3月中には完成するという話になっております。しかし、新型コロナウイルス感染症等もあり何があるかわからないということもあり、全体的にこの校舎も含めて12月議会で行政上の手続として繰越しをする考え

でおります。

繰越しにはなりますが、建物自体は完成する方向で一生懸命やっていますが、手続上は来年度に繰り越す形で対応していきたいということと、仮に3月末に完了したとしても、引っ越しに期間を要するということで、学校側とも協議をしているところですが、4月から新校舎というのはスケジュール的に難しいという状況になっております。

いつから新校舎に入れるのかということも含めて、学校の先生方の授業の関係や、ゴールデンウィーク中に引っ越しができるのかということもありますし、その辺についてはまだ状況が分かりませんが、現在建築工事についてはそういったスケジュールで動いているということと、それによって新しい校舎への引っ越しと授業開始が少しずれるだろうと、現在考えております。

あわせて、来年度は今の学校の解体工事に入ります。解体が完了したところで、グラウンドの整備工事を行う予定になっておりますので、新校舎への引っ越し等全体的に遅れると、こちらについても遅れていくという形になりますので、スケジュール管理をしっかりと行って進めていきたいと思っております。

次に真砂小学校の改築につきましては、地域の地域自治組織からの要望書に基づいて、全てが要望どおりにはならないにしても、ある程度多面的な利用という部分でいって、地域と合意を得て実施設計を出しています。

改築予定地については、今年度末に閉校になります中学校校舎を解体した後、そこに新しい小学校を建てるという計画になっております。今年度においては、特に裏側が山で急傾斜になっておりますので、その辺りを踏まえての造成設計をしております。

あわせて、今年度、校舎の改築設計、敷地の地質調査を実施し、造成工事、解体工事という部分については今年度末に発注をしていきたいと考えております。

来年度においては、校舎を建てる工事に入り、令和4年度においては外構工事を実施し、予定ではありますが令和5年1月に完成するというスケジュールを考えているところです。以上です。

舟橋委員

真砂学校の改築ということで、地域から提案書も出ており、本当に自分たちで何とかしていきたいという思いを強く感じさせてもらったところです。こうして前に進んでいるということにうれしく思いましたが、予算的なところについて分かれば教えていただきたいと思います。

長嶺課長

令和3年度の校舎建設については、新年度予算に要求をしていきます。基本的に補助事業として、文部科学省の補助金を申請していきます。ただし、学校に関わらない、公民館機能や保育園機能の部分については、文部科学省の補助金対象外になるという話をいただいておりますので、そこに

については起債で対応していくことになります。その他の補助金もありますが、スケジュール的に合わないということと、学校というものに対してはやはり文部科学省という部分になりますので、文部科学省を先に使ってくださいというのが国としての考え方になっております。

舟橋委員
村上委員

ありがとうございました。

真砂地区の建物に関しては、保育施設の機能も入っておりますが、それに関しては民間の方が運営しておられるということもあって、実際には負担というものもいただく予定になるのでしょうか。

長嶺課長

保育園につきましては、そこに限らず民間で運営されていまして、補助金をもらいながら、自らのお金で作られております。ただ、このたびは市が起債で一定程度施設を作っていくということですので、新しく入られるところについては使用料ということで相当分の負担というのは例外なくいただき、その使用料をもって起債の返済に充てていくことを考えております。

村上委員
中野委員

分りました。

真砂小学校の改築についてですが、当初図面をいただいておりますが、その変更等があったのか教えていただきたいと思います。それから、基本的な考え方ですが、確かに自治組織からの提案内容というのは重々承知しておりますが、今回小学校の改築が主になった上での複合施設という考え方だと思っておりますが、地域のいろいろな施設ありきのそこに小学校機能を持たせるというように受け取られる記載部分がありますので、その辺をはっきりしておいたほうが良いと思っております。

村上委員さんと重複しますが、地域の拠点というのは分かりますが、公民館施設を利用される上では、そこにまた使用料等も発生するのかどうか、いろいろ疑問に思うところもあるので、分かる範囲で教えていただきたいと思います。

長嶺課長

まず、位置につきましては、以前提示したものを基に設計を組んでいます。提示したものはL字になっていたと思いますが、建築設計業者のほうで詳細な設計を配置とともに行っていただいております。

それともう一点については、小学校を中心として公民館などを中に入れていくという考えでおります。小学校の空いた教室、授業で使っていない日だったり使っていない時間にいろいろな活用をしていくということで、体育館もグラウンドも同じです。

公民館の使用料については、現在、使用料というものでは求めていませんので、これは求める予定はないです。ただ、全体的な施設、小学校もあり、公民館もあり、保育園もあるということですので、どういった運営をしていくのか、誰が中心になって運営していくのかというところは、今後協議していくことになろうかと思っております。

柳井教育長
教育委員

それでは、この件についてよろしいでしょうか。
＝全員了承＝

○報第41号 令和2年度益田市定着度調査結果について

柳井教育長

続きまして、報第41号令和2年度益田市定着度調査結果についてお願いいたします。

森脇参事

今日、お渡ししております資料は議会にも報告して、ホームページでも公表したいと考えております。

この調査については、今年度から実施しておりますが、その結果概要についてご説明させていただきます。

まず、この調査の目的につきましては、平均点という考え方から一人一人の伸びに着目するということを求めています。それから、益田市の教育ビジョンに掲げています6つの重点目標がどのような状況であるのかをしっかりと把握して、今後の教育施策の改善と充実を図るということ。それから、より良い指導法を共有して、人材育成に繋げていきたいと考えております。

5月27日に実施いたしました。当初4月予定でしたが、新型コロナウイルス感染症対策として学校が休校になったり、前年度の内容がまだ未消化であったりしたということで、実施を延期しております。

実施学年は小学校4年生から中学校2年生までで、教科は国語、算数、数学ということになっております。

公表につきましては、各学年の領域等の定着の様子、それから6つの重点目標の到達度の様子、調査用紙におけるクロス集計の結果について公表をしていきます。この調査の実施主体であります埼玉県との申合せで、教科における平均値等は調査趣旨と異なるので公表はしないということになっています。

また、今年度は導入初年度のため、伸びに関するデータは取ることができませんので、公表はしておりません。

教科の結果概要につきましては、全体的にどの領域、どの部分がトータルの強いのか弱いのかということを各学年並べてみると分かるのではないかと考えて学年ごとの一覧にしております。国語の場合は、読むことは学年が進むにつれて定着率が伸びてくる傾向が見られます。そして、どの学年も話すこと、聞くこと、書くことが弱いということがありますので、このあたりを各学校でしっかり取り組んでいただく必要があると考えております。

それから、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項についてですが、言葉は難しいですが、漢字、ことわざ、短歌などがこの事項に当たるわけ

ですが、若干小学校で低い傾向にあるということが分かります。

次に、算数、数学については、図形の領域が学年が上がるにつれて身につけていることが分かると思います。一方で、量と測定の領域は定着率がどんどん落ちているという傾向がありますので、日常の題材を活用する指導等がより必要ではなかろうかと考えております。

教科につきましては、領域のいろいろな特性を知って、各学校でしっかり取り組んでいただくということが求められると考えております。

次に3ページ目から教育ビジョンの6つの重点目標の充実度について示しております。郷土愛、不撓不屈、活力、発信力、自律、支え合いという項目がどのような状況であるかということを質問紙によって確認しております。それぞれ一般的に言いますと、小学校の方が個別的な要因が多く、中学校になりますと、発達段階に応じて若干そのあたりが下がってしまう。あるいはいろいろなものが情報として見えてくるというところもあって、やや定着といいますか到達度が下がってしまう傾向が見受けられます。これは今年度の状況ですので、今進めている施策等が安定的になると、今後その年ごとに変化が表れてくるのではないかとということも期待しながら、継続して見ていきたいと思っております。

あわせて、3ページ目の郷土愛の重点目標ですが、今住んでいる県や市町村の歴史や自然に関心を持っていますかという質問項目になっております。この項目には相関関係が高い質問項目を載せております。この質問項目に対する相関係数が高い項目として、難しいことでも失敗を恐れずに挑戦するという項目を挙げていますが、この項目にも該当すると答える子どもが多い傾向があるということが分かっておりますので、歴史に関心を持つ、いわゆるふるさとに関わる教育をしていくということと併せて、失敗を恐れずに挑戦するような機会をどんどん与えることによって、それらが相関的に複合的に伸びていく可能性があるということで、相乗的に効果が高まるものについて載せております。

他にも、地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり一緒に遊んだことがある子ども、学校の先生は自分のよいところを認めてくれたと答える子ども、家の人と学校の出来事について話をする子どもについては、歴史や自然に関心を持つ傾向が高くなるということで、この郷土愛についてもそういう項目を高めるところを意識しながら、子どもたちを育てていくということが大切ではないかということで、こういったところも意識して学校教育の観点で育てていっていただきたいと考えています。

5ページ目をご覧ください。先ほど小学校の方が肯定群が高いということをお話ししましたが、5番目の自立、6番目の支え合いについては中学校の方が高い傾向が出ています。特に、支え合いの部分などは随分上がっている傾向があつて、子どもたちの心の成長といったところが感じられま

す。これらを強みとしてのデータとして捉えていきたいと考えております。

6 ページには、クロス集計ということで、どのような項目が定着度に大きな影響を与えるのかというところ示しております。6 ページ目は1 か月の読書量と定着度について、例として小学校4 年生の調査結果を載せております。

小学校4 年生は32.9 %の児童が1 か月に11 冊以上の本を読んでいると答えており、非常に本を読む子どもたちが多いことが分かります。一方で、7.2 %は1 冊も読まないと答えているということで、二極化しており、特に7.2 %の本を読まない子どもたちには読書をする習慣を身につけさせていくことが大切だと思っております。

関連性としまして国語の定着度について、11 冊以上読む子どもは75 %以上の正答率がある子が多いということが分かります。一般的に言われる本の好きな子は国語の力がついていくということになるのではなかろうかと思います。また、算数について調べてみますと、やはり読書量が多い児童のほうが定着率が良いという結果が明らかに見えます。こういった結果から、下の学年から読書に親しむ習慣を身につけるということは、国語以外の教科にもプラスの影響があるということが分かります。

次に、ゲーム使用の約束と定着度ということで、家庭内でゲーム使用の約束事があるかというところを質問しております。小学校のうちは約束事というものがうまく機能しているようですが、中学校2 年生においてはぐっと下がっております。発達段階にもよるかもしれませんが、中学校になるとルールを決めている割合が減っているというのが、いろいろなところにマイナスの影響を与えているのではないかと思います。

この質問項目のクロス集計の例として小学校5 年生を載せております。国語、算数とも約束事を決めている子どものほうが定着率が良いことが分かります。他の学年でもほぼ同じような現象があります。そしてもう一つは、どの学年でも算数のほうが定着率の差が大きい傾向が見られます。何がその要因になっているのかは簡単に分析することはできませんが、国語よりも算数のほうが定着率の差が大きいという傾向は各学年で見ることができました。

この結果に対してどうするのかということですが、各学校に聞き取りを行って、今後の学校運営について協議をしていきたいと思っております。学年ごとの分布の具合をしっかりと各学校で知っていただくということ、それから国語と算数・数学の領域ごとの強み、弱みを明らかにして、どういう指導をするかを考えていただくということ、それから教育ビジョンの6 つの重点目標の到達率を各学校で確認していただいて、弱いところと強いところをしっかりと意識して教育活動を行っていただきたいと思います。

それから、質問紙には、あなたは勉強する理由について、勉強するこ

とが楽しいから、好きだからなどの主体的な捉え方や、発表をしっかりと聞くことができているかなどの質問項目がありますので、これらを丁寧に見ていって、主体的、対話的で深い学びの授業が行われているかというところも確認していきたいと思っております。

また、小中一貫教育の充実というところで、小学校4年生から中学校3年生まで、一人一人の個別の情報がこの1つのテストを行うことによって同一資料で読み解くことができます。来年度以降、一人一人の伸びについて確認することができますので、これを小学校と中学校の情報をしっかりと共有する材料として、この機能を上手く活用していきたいと考えております。

今後の課題としましては、6つの重点目標の状況を判断する質問紙が、本当にこの質問で判断できているのかというところがしっかりと開発されておきませんので、例えば郷土愛については今住んでいる県や市町村の歴史や自然に関心を持っていますかという質問になっていますが、率直なところ、小学生に対して県という言葉が先に入りますと、県のことに対してに関心を持たないといけないのかと思う可能性もありますので、このあたりの質問項目を若干精査していかないといけないと感じております。

それから、新しい時代に向かってGIGAスクールのタブレット等も入ってきますので、それをどのようにこの中で評価していくかというところもこれから考えていく必要があると思っております。

来年度は一人一人の伸びに関わるデータが出来ますので、それをどう有効に使っていくかということのをこれからしっかりと準備していくことが必要と思っております。以上が議会やホームページで公表する資料の説明になります。

次に各個人に配られる個人票についてご説明します。

資料として見本をお配りしておりますのでご覧ください。教科ごとに現在の学年の欄にラインが引いてありますが、このラインが個人のレベルを現しております。

見本では、国語の場合ですと、レベル6のAということになります。下には、学習に対するアドバイスということで、その子どもの強いところ、弱いところが書かれています。さらに、領域の強いところ、弱いところをグラフ化しております。県の正答率分布というところがありますが、県全体では実施しておりませんので、益田市は空欄となります。

数学も同じような形になっており、毎年実施しますので、来年には次の学年の欄にレベルが表記されたものが返ってくるということになります。

経年結果というところで、通知表の持ち上がりということがあったと思いますが、その中にこの個人調査票も添付をしていただければ、この資料というのがさらに有効になってくるのではないかと思います。

中野委員

森脇参事

今、県の方で進めておりますキャリアパスポートという取組があります。学校でやったこと、地域活動をしたことを年間2枚か3枚の紙に残して、それを次の学年へ持ち上がっていき、最終的には小学1年生から中学3年生までの自分の記録を残していくという取組があります。中野委員さんがおっしゃられたような思いを持っておられる学校もありますので、一つのアイデアとして紹介をしていきたいと思います。

今後、コロナが収まれば、この調査を4月に実施し、その結果を7月の夏休み前の懇談などで生かしていきたいという学校現場からの意見もあります。スケジュール感としては一番よいのではないかと考えております。

中野委員
梅津委員

ありがとうございます。

1か月の読書量と定着度というところですが、1か月に11冊以上本を読むと答えた児童が多いのは良いと思いますが、問題なのは7.2%の1か月に1冊も読まないというところで、読書への働き方が必要であるということが書いてありますが、1冊も読まないというのは残念に思いますので、もっともっと力を入れていただきたいと思います。少し前に中学校でメディアの使い方を考えようというところで分科会がありましたが、その時にも読書をしないという生徒が多くて、ゲームなどのメディア関係に時間を費やしているようなことが見受けられました。今、一番成長期の大切なときにしっかり本を読んでいただきたいと思いますので、この部分に力を入れていただきたいと思います。

柳井教育長
舟橋委員

ありがとうございます。

それぞれ個々に応じた結果が出てきているということで、それを経年的に見ていくということをお聞きして、良い方向に進んでいるということを感じております。

この結果を保護者の方にいかに意識していただくかというところが大きな課題になると思いますが、家庭の生活のあり方が、今の読書のことも一緒ですが関わってきますので、そういった辺りをどのようにお考えなのか教えていただきたいと思います。

森脇参事

公表の仕方については、また内部で協議しまして、例えば広報などで益田市の子どもたちの状況というところで出せる情報につきましては出していくことも必要ではないかと考えております。いろいろな形で家庭の意識であったり地域の方の意識であったりというところで、今の子どもたちの状況を知っていただいて、さらにいろいろな形で支援していただくということも大切なことだと思いますので、できるだけ地域の方にも分かりやすい形で公表していきたいと思います。

舟橋委員

この間の新聞記事に、二学期制の結果はどうだったというようなことが載っていましたが、まだまだコロナ禍の中で評価できるようなものが出ているわけでもないのに、そういう質問をしてくるということ自体に

私はどうだろうかと思いましたが、今現在の状況というのはこういう状況で出せないけれどもという条件の下に、少しずつでも伝えていくということ、伝え方としては教育委員会として出すということもあると思いますが、できるだけ学校にも求めながら、教育委員会として全体を通した方向性や結果というのを周知していく方向、先ほどご考慮いただくということでお聞きしましたので、よろしく願いしたいと思います。

柳井教育長

その件につきましては先般の校長会でも二学期制についての新聞報道の中で十分地域や保護者に伝わっていない部分があるので、発信していない限りなかなか皆さんには見えないということで、願いしたいということを伝えました。

舟橋委員

ありがとうございます。

柳井教育長

それでは、この件についてよろしいでしょうか。

教育委員

＝全員了承＝

○報第42号 突風による物損事故に係る物件損害の損害賠償について

柳井教育長

続きまして、報第42号突風による物損事故に係る物件損害の損害賠償についてお願いします。

田原課長

この件につきましては、9月8日に吉田小学校において、風にあおられたテントが飛んで車両2台に当たる事故が発生したことによるものです。これまで加入しておりました保険会社と協議を行う中で調整をしておりましたが、相手方の方々と示談が成立いたしましたので、報告をさせていただきます。

事故の概要につきましては、昼休み中に子どもたちが自主的に校庭で運動会の練習をしている際に、気分が悪くなることも想定されたので、テントを張って教員が練習を見ており、練習が終わり各教室に戻った後、前日に台風が益田市にも接近していた状況であったということがあり、この日はそこまで風が強くはありませんでしたが、暴風対策をしていた状況ではありましたが、突風が吹きテントがあおられて、それぞれの車のボディーに当たりました。

被害の状況につきましては、A車については、フロントガラス横にへこみが発生しました。それから、B車につきましてはボディーに3か所のへこみとフロントガラスが破損しました。それぞれの賠償額につきましては、Aの車につきましては15万円程度、Bの車につきましては42万円程度になっております。

それぞれ協議を行っていく中で、示談が成立いたしましたので、この賠償責任額につきましては学校災害賠償補償保険により全国市長会から支払われることになっております。この件につきましては、今週末から行われ

ます議会でも報告したいと考えております。

中野委員

今回テントが突風にあって損害が出てしまったということですが、仮に、石がはねてしまってガラスが割れるということも考えられると思います。考え方として民間であれば駐車場に止めてあるものは個人の責任においてという考え方になってくるのだらうと思いますが、学校施設についての考え方についてはどのような考え方になっているのか教えていただきたいと思います。今回はこういうケースだったので、賠償責任があったということもありますが、例えば保護者同士で何かあったときには保護者責任になるのか、そういった辺りを明確にしておかないと同じようなことが発生した場合に困ることも出てくると思います。

田原課長

今回のように市に瑕疵があった場合につきましては、この保険が適用されるということになっておりますが、例えば学校施設ですと、子どもたちが何かしら学校活動や登下校中に物を壊してしまったということが発生する可能性があると思います。こういった場合につきましては保険にも入っておりますので対応はできます。

ただ、学校の施設内で一般の方々同士で事故があった場合につきましては、こちらに相応の瑕疵があった場合についてはその辺も考えなければならぬとは思いますが、通常はそれぞれの方々に調整をしていただくものであると考えております。

中野委員

ありがとうございます。こういったことがないようにやっていかないといけないと思いますので、よろしくお願いします。

舟橋委員

この事故でけが人が出なかったということは本当に幸いだと思いますが、このテントが舞い上がることは起こり得る、いつ起こるか分からないというところで、杭を打ったからいいという問題でもないような気がします。これから先、しかも台風の過ぎた次の日というのは風もばたつきやすい状況でもあるわけですから、土のうなどを置いたり、さらに錘をつけるなど、そういった対応をしているのかというところは検証をされていますか。

田原課長

各学校に問合せをしましたが、その中では暴風対策をきちんと行っていたということではあります。ただ、ひもで打ちつけたものに固定しているのが杭ごと飛んだとか、紐が切れて飛んだという状況はありますので、いくら対策をしても突風が吹いたときにはこういうことが起こり得るということは十分に考えられるということが今回の事故で分りました。

その中では、各学校とも運動会シーズンで、こういった事故が起こり得るということが十分想定されますので、今後風の状況によっては起こり得るということを想定しながら、小まめにテントを畳む、畳まなくても飛ばないように風が通りやすくなるような形の対策をしていただくように学校に伝えております。

舟橋委員

きちんとしているというのは、あくまでも個人的な見解です。だから、

きちんとというのがどうしたものがきちんとなのか、その辺りを見ていかないといけないと思います。学校と連携しながら、安全策はこれ以上ないというぐらいまでやっていったほうが良いと思いますので、よろしくお願いします。

村上委員 舟橋委員さんのお話を聞きながら、安全対策というのには本当に限りがない。子どもの命を守っている場所でもありますし、今回、怪我がなかったということは本当に良かったと思います。こういった事故があった場合は、各学校に対してどういう状況でこういう事故が発生したのかというところをぜひ共有して、全体の中でこういった教訓を生かしていくことができればと思いますので、よろしくお願いいたします。

田原課長 各学校にはこういった状況の中でこういう事故が起ったということは伝えております。やはり起こった事故に対して、村上委員がおっしゃいましたように共有することが今後の対策に大きく繋がっていくと考えております。今後もきちんと各学校と共有する中で、事故が起らないようにしていきたいと思っております。

柳井教育長 それでは、この件についてよろしいでしょうか。
教育委員 =全員了承=

柳井教育長 今回は12月22日の15時30分から定例教育委員会を開催いたします。よろしくお願いいたします。それでは以上で定例教育委員会を終了いたします。ありがとうございました。

=終了時間 11時23分=